



渋沢栄一  
ひとづくりカレッジ

# 渋沢栄一 ひとづくりフォーラム2022

11/11(金) 14:30~  
(14:00~受付開始)

オンライン  
(Zoomウェビナー)  
同時配信

深谷市民文化会館 大ホール 〒366-0823 埼玉県深谷市本住町17-1)

渋沢栄一の生誕地・埼玉県深谷市から全国、世界へ向けいよいよ発進!

深谷市は、「渋沢栄一翁の顕彰に関する包括連携協定」を締結する東京海上日動火災保険株式会社、株式会社チエノワ、株式会社埼玉新聞社と連携し「渋沢栄一ひとづくりカレッジ」プロジェクトを始動しました。500社あまりの企業に携わり、「近代日本経済の父」と呼ばれる深谷出身の実業家・渋沢栄一は、幕末から明治、大正、昭和へと激動の時代を生き抜く中で、みんなの幸せのため数々の逆境を乗り越え、近代日本経済の礎を築きました。その礎の原動力は「ひとづくり」であると私たちは信じています。

現在、新型コロナウイルスや紛争、自然災害など、先行きの見えない状態の中で、渋沢栄一の「ひとづくり」をヒントに、「道徳と経済」の両立を基本理念に時代の変化に対応できる人材を育てる学び舎「渋沢栄一ひとづくりカレッジ」を埼玉県深谷市からスタートさせ、そのキックオフイベントとして「渋沢栄一ひとづくりフォーラム2022」を開催します。

## 第一部

### 経営者の葛藤と知恵

～渋沢栄一賞 受賞者編～

栄一翁が示した「道徳経済合一説」や「論語と算盤」の如く、私益と公益の両立を図り、様々な逆境や業界内での非常識に取り組みながら“ひとづくり”に挑戦された実体験についてお話をいただきます。



トールコーヒー  
名誉会長

鳥羽 博道

ヤオコー  
代表取締役会長

川野 幸夫

マルハ物産  
代表取締役会長

林 香与子

## 第二部

### 後継者の苦悩と革新

～渋沢栄一賞受賞者の後継者編～

偉大な先代(渋沢栄一賞 受賞者)の土台がある中、先代の想いは継承しながら、時代の変化とともに新たな分野での挑戦、その裏側にある葛藤や苦悩、更には“ひとづくり”の秘訣についてお話をいただきます。



埼玉種畜牧場  
代表取締役会長

笹崎 静雄

山田食品産業  
代表取締役社長

山田 裕朗

伊那食品工業  
代表取締役社長

塚越 英弘

お申し込みはこちら

お申し込み期限:2022年11月1日(火)23:59

※定員になり次第、申し込みを締め切ります。

お申し込み方法:

右のQRコードより必要事項を入力の上、ご登録ください。



※[QRコード]はWebページの登録専用です。

コーディネーター  
渋沢栄一ひとづくりカレッジ 発起人

田中 雅也

司会・進行  
フリーアナウンサー

石田 紗英子

主催:渋沢栄一ひとづくりカレッジ発足準備室(深谷市、東京海上日動火災保険(株)、(株)チエノワ、(株)埼玉新聞社)  
後援(順不同):埼玉県、公益財団法人渋沢栄一記念財団、東京商工会議所、深谷商工会議所、ふかや市商工会、  
埼玉りそな銀行、埼玉縣信用金庫

問い合わせ先:渋沢栄一ひとづくりカレッジ発足準備室深谷事務所(深谷市役所渋沢栄一政策推進課内)

TEL:048-577-5061 E-mail:info@fukaya-shc.org HP:https://fukaya-shc.org

※登壇者の肩書は2022年6月15日(水)時点となります。社会情勢を踏まえ一部内容を変更する場合がございます。





# ＜渋沢栄一 Premium meeting 2022＞開催報告

プレミアムミーティング

参加人数326名 ※会場参加198名+オンライン参加128名

## 登壇者

東京商工会議所 第21代会頭 三村 明夫 氏  
 公益財団法人 産業雇用安定センター 会長 矢野 弘典 氏  
 東京海上日動火災保険 常勤顧問  
 水戸徳川家 第15代当主 徳川 斉正 氏  
 埼玉県深谷市 市長 小島 進 氏

## 来賓

トールコーヒー 名誉会長 鳥羽 博道 様  
 マルハ物産 代表取締役会長 林 香与子 様  
 渋沢史料館 顧問 井上 潤 様  
 東京商工会議所 常務理事 小林 治彦 様  
 埼玉りそな銀行 取締役会長 池田 一義 様  
 埼玉県信用金庫 理事長 池田 啓一 様  
 深谷市議会 議長 武井 伸一 様  
 深谷商工会議所 会頭 村岡 正巳 様  
 ふかや市商工会 会長 沼尻 芳治 様

## コーディネーター

株式会社チエノワ 代表取締役CEO  
 智慧の燈火プロジェクト 代表理事  
 渋沢栄一ひとづくりカレッジ 発起人  
 田中 雅也

## 司会・進行

フリーアナウンサー  
 石田 紗英子



## ＜参加者アンケート(抜粋)＞

- ・とても素晴らしいの一言に尽きる。日ごろの生活では体験できない講演会に参加でき、書ききれないほどメモをとらせていただきました。
- ・人が大切であり、困難なときこそ人の和(天の時、地の利、人の和)が大事。武田信玄の名言「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり。」を思い出した!
- ・損得の得ではなく人の徳を積み重ねていくことを実感。企業経営には徳が必要であり、社会貢献も含めた経営を考えていきたい!
- ・苦勞葛藤を含めた様々な実体験を自分のものとし、それを他社&他人へ還元する力(公益)が結果的に自分自身に大きな利益を与えるということに感激した!



開催レポートは  
こちら



ダイジェスト映像は  
こちら



ひとづくりカレッジ  
とは

## 渋沢栄一 略歴

Shibusawa Eiichi

家業の畑作、藍玉の製造・販売、養蚕を手伝う一方、幼い頃から父に学問の手解きを受け、従兄の尾高惇忠から本格的に「論語」などを学びます。



渋沢史料館所蔵

1840年

天保十一年二月一三日  
現在の埼玉県深谷市血洗島に生まれる。



★ 血洗島  
ちらいじま

深谷駅・

深谷市

郷里を離れた栄一は一橋慶喜に仕えることになり、一橋家の家政の改善などに実力を発揮し、次第に認められていきます。27歳の時、15代将軍となった徳川慶喜の実弟で後の水戸藩主、徳川昭武に随行し、万国博覧会を見学するほか欧州諸国の実情を見聞し、先進諸国の社会の内情に広く通ずることができました。栄一は企業の創設・育成に力を入れ、「道德経済合一説」を説き続けました。生涯に約500もの企業に関わり、約600の教育機関・社会公共事業の支援並びに民間外交に尽力しました。